

原 安 第 4 3 号  
令和 4 年 4 月 6 日

唐津市長 峰 達郎 様

佐賀県知事 山口 祥義



原子力発電所の安全確保に関する協定書第5条に基づく連絡内容について  
(通知)

このことについて、原子力発電所の安全確保に関する協定書第5条（平常時における連絡）に基づき、以下のとおり九州電力株式会社から連絡を受けたので、平成18年3月26日付けで交換した「原子力発電所の安全確保に関する協定書に係る佐賀県と唐津市の確認書」に基づき、通知します。

1 協定書の覚書に基づく連絡について

〔佐賀県知事宛て 九州電力㈱代表取締役社長執行役員名  
2022年3月31日付け 立コミ本第482号〕・・・(別添1)

2 玄海原子力発電所原子炉施設保安規定の変更について

〔佐賀県知事宛て 九州電力㈱代表取締役社長執行役員名  
2022年4月1日付け 立コミ本第492号〕・・・(別添2)

3 国際原子力機関による玄海原子力発電所3号機の査察に伴うフォーク型  
検出器の輸送について（搬入）

〔佐賀県知事宛て 九州電力㈱代表取締役社長執行役員名  
2022年4月1日付け 立コミ本第497号〕・・・(別添3)



別 添 1

立コミ本第482号  
2022年3月31日

佐賀県知事  
山口 祥義 様

九州電力株式会社  
代表取締役 池 辺 和  
社長執行役員



協定書の覚書に基づく連絡について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、「原子力発電所の安全確保に関する協定書」第5条に基づき、  
別添報告書のとおり連絡いたしますのでご査収ください。

敬 具

報告書内容

- |                            |         |
|----------------------------|---------|
| 1. 環境保全測定報告書               | ( 月 報 ) |
| 2. 発 電 実 績                 | ( 月 報 ) |
| 3. 核燃料物質の消費状況              | ( 月 報 ) |
| 4. 放射性廃棄物の管理状況             | ( 月 報 ) |
| 5. 環境放射能の測定結果<br>モニタリングポスト | ( 月 報 ) |
| 6. 廃止措置の実施状況               | ( 月 報 ) |
| 7. 発電所職員等に対する教育訓練の実施計画     | ( 年 報 ) |

以 上

# 環境保全測定報告書

2022 年 2 月分

九州電力株式会社

## 1. 補助ボイラ用重油のいおう分

重油いおう分 (%)	玄海 1 ・ 2 号機	玄海 3 ・ 4 号機
	0.05	0.06

## 2. 排水処理施設出口排水の水質

玄海 1 ・ 2 号機					玄海 3 ・ 4 号機				
測定月日	水素イオン濃度*1	化学的酸素要求量 (mg/l)*1	浮遊物質 量 (mg/l)*2	油 分 (mg/l)*2	測定月日	水素イオン濃度*1	化学的酸素要求量 (mg/l)*1	浮遊物質 量 (mg/l)*2	油 分 (mg/l)*2
2月2日	7.3	0.7	—	—	2月2日	7.3	2.6	—	—
2月9日	7.1	<0.5	—	—	2月9日	7.3	1.3	—	—
2月16日	7.3	0.6	1.1	検出せず	2月16日	7.3	2.2	0.1	検出せず
2月22日	6.8	0.7	—	—	2月22日	7.2	1.1	—	—

\*1 毎週1回以上の測定

\*2 毎月1回以上の測定

## 3. 取放水口の海水温度および放水の残留塩素

	玄海1・2号機			玄海3号機			玄海4号機		
	取水口の温度 (°C)	放水口の温度 (°C)	放水の残留塩素 (mg/l)	取水口の温度 (°C)	放水口の温度 (°C)	放水の残留塩素 (mg/l)	取水口の温度 (°C)	放水口の温度 (°C)	放水の残留塩素 (mg/l)
2月10日	13.1	13.4	検出せず	13.3	14.9	検出せず	13.3	20.1	検出せず
*1 2月18日	12.7	12.7	検出せず	12.8	14.9	検出せず	12.9	19.7	検出せず
2月28日	13.0	13.0	検出せず	13.0	15.1	検出せず	13.0	19.9	検出せず

\*1 20日が休日のため、18日の測定結果を報告

# 発 電 実 績

2022年2月分

九州電力株式会社

号機		※1	※2	3号機	4号機	発電所合計	
		1号機	2号機				
最大出力	kW	—	—	1,180,000	1,180,000	2,360,000	
発電日数	日	—	—	0	28	28	
発電時間数	時間	—	—	0	672	672	
電 力 量	発電端	10 <sup>3</sup> kWh	—	—	0	800,933	800,933
	所内消費	10 <sup>3</sup> kWh	1,158	1,156	7,024	30,802	40,140
	送電端	10 <sup>3</sup> kWh	-1,158	-1,156	-7,024	770,131	760,793
最大電力	kW	—	—	0	1,195,000	1,195,000	
平均最大電力	kW	—	—	0	1,193,143	1,193,143	
平均電力	kW	—	—	0	1,191,865	1,191,865	
負荷率	%	—	—	0.0	99.7	99.7	
利用率	%	—	—	0.0	101.0	50.5	

※1 2015年4月27日運転終了

※2 2019年4月9日運転終了

核燃料物質の消費状況

九州電力株式会社  
(玄海原子力発電所1号炉)

2022年 2 月分

初期濃縮度 (%)	炉内入量		月末在庫量 (炉内そう入用)		月末装置量				炉外取出量				月末在庫量 (払出用)			熱消費量 (10 <sup>9</sup> kJ)	核燃料物質消費量 (kg)
	ウランの量 (kg)	235の量 (kg)	ウランの量 (kg)	235の量 (kg)	ウランの量 (kg)	235の量 (kg)	燃焼度 (10 <sup>3</sup> kWd/t)	ウランの量 (kg)	235の量 (kg)	燃焼度 (10 <sup>3</sup> kWd/t)	ウランの量 (kg)	235の量 (kg)	燃焼度 (10 <sup>3</sup> kWd/t)	ウランの量 (kg)	235の量 (kg)		
3.40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4.10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4.80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注) 2016年4月27日運転終了  
(注) ( ) 内は燃料集合体数を示す。



核燃料物質の消費状況

九州電力株式会社  
(玄海原子力発電所3号炉)

2022年

2月分

初期濃縮度 (%)	炉内 せう入量			月末在庫量 (炉内せう入用)			月末残荷量			炉外取出量			月末在庫量 (私出用)			熱消費量 ( $10^9$ kJ)	核燃料物質消費量 (kg)	
	ウラン の量 (kg)	プルトニウム の量 (kg)	ウラン 235 の量 (kg)	ウラン の量 (kg)	プルトニウム の量 (kg)	燃焼度 ( $10^3$ kWd/t)	ウラン の量 (kg)	プルトニウム の量 (kg)	燃焼度 ( $10^3$ kWd/t)	ウラン 235 の量 (kg)	プルトニウム の量 (kg)	燃焼度 ( $10^3$ kWd/t)	ウラン の量 (kg)	ウラン 235 の量 (kg)	プルトニウム の量 (kg)			
2.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29,209	233	205	0	0	
3.50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,828	59	91	0	0	
4.10	0	0	0	(171)	75,993	2,126	(173)	75,511	1,372	672	29,015	0	0	234,650	2,670	2,636	0	0
(MOX) *	0	0	0	0	0	0	(20)	8,210	12	621	38,243	0	0	6,569	10	535	0	0
合計	0	0	0	(171)	75,993	2,126	(193)	83,721	1,384	1,293	16,332	0	0	278,265	2,972	3,467	0	0

(注) ( ) 内は燃料集合体数を示す。  
\* 約4.1wt%濃縮ウラン相当以下





放射 性 廃 棄 物 の 管 理 状 況

2022年2月分

玄海原子力発電所1号炉

九州電力株式会社

(1) 気体廃棄物

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排気口濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )	
		平均値	最大値
N D	N D	—	—

(注) ND:検出限界値未満を示す。

(2) 液体廃棄物※

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排水口濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )	
		平均値	最大値
N D	N D	—	—

(注) ND:検出限界値未満を示す。

※ 1、2号炉計の値を示す。

(3) 固体廃棄物※

発生量(本) (焼却処理等による減少分)	累積貯蔵量(本)
217 (-1, 504)	38, 147

(注) 200ℓドラム缶相当本数で示す。

※ 1、2、3、4号炉計の値を示す。

放射性廃棄物の管理状況

2022年2月分

玄海原子力発電所2号炉

九州電力株式会社

(1) 気体廃棄物

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排気口濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )	
		平均値	最大値
N D	N D	—	—

(注) ND:検出限界値未満を示す。

(2) 液体廃棄物※

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排水口濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )	
		平均値	最大値
—	—	—	—

※ 1、2号炉計(共用設備)を1号炉分に表示。

(3) 固体廃棄物※

発生量(本)	累積貯蔵量(本)
—	—

※ 1、2、3、4号炉計(共用設備)を1号炉分に表示。

放射性廃棄物の管理状況

2022年2月分

玄海原子力発電所3号炉

九州電力株式会社

(1) 気体廃棄物

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排気口濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )	
		平均値	最大値
2.2×10 <sup>11</sup>	2.2×10 <sup>11</sup>	—	—

(2) 液体廃棄物※

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排水口濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )	
		平均値	最大値
N D	N D	—	—

(注) ND:検出限界値未満を示す。

※ 3、4号炉計の値を示す。

(3) 固体廃棄物※

発生量(本)	累積貯蔵量(本)
—	—

※ 1、2、3、4号炉計(共用設備)を1号炉分に示す。

放射 性 廃 棄 物 の 管 理 状 況

2022年2月分

玄海原子力発電所4号炉

九州電力株式会社

(1) 気体廃棄物

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排気口濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )	
		平均値	最大値
ND	ND	—	—

(注) ND:検出限界値未満を示す。

(2) 液体廃棄物※

放出量 (Bq)	累積放出量(Bq) (4月1日より)	3月間の排水口濃度(Bq/cm <sup>3</sup> )	
		平均値	最大値
—	—	—	—

※ 3、4号炉計(共用設備)を3号炉分に表示。

(3) 固体廃棄物※

発生量(本)	累積貯蔵量(本)
—	—

※ 1、2、3、4号炉計(共用設備)を1号炉分に表示。

# 環境放射能測定結果

( 2022 年 2 月分)

2022 年 3 月

九州電力株式会社

空間線量率測定結果(モニタリングステーション)

2022 年 2 月分

九州電力株式会社

測定場所 ステーション

日	最 高 (nGy/h)	最 低 (nGy/h)	平 均 (nGy/h)	日	最 高 (nGy/h)	最 低 (nGy/h)	平 均 (nGy/h)
1	26	24	25	16	26	24	25
2	25	24	25	17	25	24	24
3	25	24	24	18	25	24	25
4	25	24	24	19	35	24	29
5	25	24	25	20	25	24	25
6	25	24	24	21	25	24	24
7	24	24	24	22	25	24	25
8	25	24	24	23	25	24	25
9	25	24	24	24	25	24	24
10	29	24	26	25	25	24	24
11	25	24	25	26	25	24	24
12	25	24	24	27	25	24	25
13	34	25	28	28	25	24	25
14	25	24	25	29	—	—	—
15	25	24	25	30	—	—	—
				31	—	—	—

空間線量率測定結果(モニタリングポスト)

2022 年 2 月分

九州電力株式会社

測定場所 PC-1(岸壁)

日	最 高 (nGy/h)	最 低 (nGy/h)	平 均 (nGy/h)	日	最 高 (nGy/h)	最 低 (nGy/h)	平 均 (nGy/h)
1	24	22	23	16	24	22	23
2	23	22	23	17	23	22	22
3	23	22	22	18	23	22	23
4	23	22	23	19	32	22	26
5	23	22	23	20	23	22	23
6	23	22	22	21	23	22	22
7	22	22	22	22	23	22	23
8	23	22	23	23	23	22	23
9	23	22	22	24	23	22	22
10	27	22	24	25	23	22	23
11	23	23	23	26	23	22	23
12	23	22	23	27	23	22	23
13	31	23	26	28	23	23	23
14	23	23	23	29	—	—	—
15	23	22	23	30	—	—	—
				31	—	—	—

空間線量率測定結果(モニタリングポスト)

2022 年 2 月分

九州電力株式会社

測定場所 PC-2(ダム南)

日	最 高 (nGy/h)	最 低 (nGy/h)	平 均 (nGy/h)	日	最 高 (nGy/h)	最 低 (nGy/h)	平 均 (nGy/h)
1	25	23	24	16	25	23	24
2	24	23	24	17	24	23	23
3	23	23	23	18	24	23	24
4	24	23	23	19	34	23	28
5	24	23	24	20	24	23	23
6	24	23	23	21	24	23	23
7	23	23	23	22	24	23	24
8	24	23	23	23	24	23	24
9	24	23	23	24	24	23	23
10	28	23	25	25	24	23	23
11	24	24	24	26	24	23	23
12	24	23	23	27	24	23	24
13	32	23	27	28	24	23	24
14	24	23	24	29	—	—	—
15	24	23	24	30	—	—	—
				31	—	—	—



玄海1号機 廃止措置の実施状況  
(2022年 2月分)

1 第1段階(解体工事準備期間)の進捗状況(注1)

項目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	
(1)系統除染	▼着工(7月13日)									
除染準備作業	[黒塗り]									
装置設置	[黒塗り]									
除染	[黒塗り]									
片付け(装置撤去)	[黒塗り]									
(2)汚染状況の調査	[黒塗り]									
線量当量率測定	[黒塗り]									
試料採取	[黒塗り]									
輸送・分析・評価	輸送・分析 [黒塗り] 評価 [黒塗り] 必要に応じて追加実施									
(3)汚染のない設備の解体撤去	高圧給水加熱器 [黒塗り] 低圧給水加熱器等 [黒塗り] タービン建屋内機器保温材 [黒塗り] 復水ブースポンプ等 [黒塗り] スチームコンバータ等 [黒塗り] 主給水ポンプ等 [黒塗り] 復水脱塩装置(中和槽 排水槽) [黒塗り] 給水イーストポンプ等 [黒塗り] 塵芥搬送装置等 [黒塗り]									
(4)使用済燃料搬出	搬出計画検討									
(5)新燃料搬出	輸送容器への収納方法検討・搬出準備 搬出									

2 今月の作業実績(注2)

(1) 系統除染

終了(2017.7.13~2018.12.11)

(2) 汚染状況の調査

工事名	作業期間	工事の概要	作業実績
輸送・分析・評価	2018.5.23~ 2022.3.31(予定)	原子炉格納容器内外の放射化によるコンクリート、金属、及び二次的に汚染した配管、機器及び建屋の放射能濃度を確認するために採取した試料の分析及び評価を行う。	○評価 ・2020.10.27~実施中

## (3) 汚染のない設備の解体撤去

工事名	作業期間	工事の概要	作業実績
2次系設備の解体撤去工事	2017.11.1～ 2026.3.31 (予定)	汚染のない管理区域外の2次系設備の解体撤去を実施する。	タービン建屋内機器保温材撤去工事 ・2020.12.25～2022.2.28

【解体撤去物の状況】(注3)

(単位：トン)

種類	発生量		処分量		保管量
	今月	累計	今月	累計	
金属類	0	990.7	0	990.7	0
コンクリート類	0	45.7	0	45.7	0
その他	0	99.0	0	99.0	0

## (4) 燃料搬出(注4)

・実績なし

分類	保管場所	項目	燃料体数
玄海1号 使用済燃料	1号機 使用済燃料ピット	貯蔵量(当初)	240
		搬出量(前月末まで)	0
		搬出量(今月分)	0
		貯蔵量(今月末)	240
	4号機 使用済燃料ピット	貯蔵量(当初)	112
		搬出量(前月末まで)	0
		搬出量(今月分)	0
		貯蔵量(今月末)	112
玄海1号 新燃料	1号機 使用済燃料ピット	貯蔵量(当初)	16
		搬出量(前月末まで)	0
		搬出量(今月分)	0
		貯蔵量(今月末)	16
	1号機 新燃料貯蔵庫	貯蔵量(当初)	64
		搬出量(前月末まで)	0
		搬出量(今月分)	0
		貯蔵量(今月末)	64

## (5) 放射性固体廃棄物(注5)

種類	発生量		減少量		保管量
	今月	累計	今月	累計	
使用済樹脂(m <sup>3</sup> )	0	6,425	0	0	6,425
固体廃棄物(本)	2	701	0	0	701
均質固化体	0	18	0	0	18
充填固化体	0	0	0	0	0
雑固体	2	683	0	0	683

## (6) 放射線業務従事者の被ばく線量(注6)

合計 (人・mSv)	今月		累計 (解体工事準備期間中) [2017.4.19～2022.2.28] (人・mSv)
	平均線量 (mSv)	最大線量 (mSv)	
0.03	0.00	0.03	200.23

3 その他  
・なし

## 記載要領について

- (注1) 1 第1段階（解体工事準備期間）の進捗状況
- (1) 使用済燃料搬出の計画については、六ヶ所再処理工場の竣工状況を踏まえた搬出時期の検討を点線で記載する。
  - (2) 新燃料搬出の計画については、新燃料を搬出するための輸送容器への収納方法等の技術的検討を点線で記載する。
- (注2) 2 今月の作業実績
- (1) 「1 第1段階（解体工事準備期間）の進捗状況」に記載している主な工事の実績を記載する。
- (注3) 2 (3) 汚染のない設備の解体撤去 【解体撤去物の状況】
- (1) 「発生量」は、設備を解体した際に計量した量（トン数）を記載する。
  - (2) 「処分量」は、施設外に産業廃棄物又は有価物として搬出した量を記載する。
  - (3) 「保管量」は、発生量と処分量の累計の差を記載する。
- (注4) 2 (4) 燃料搬出
- (1) 「貯蔵量（当初）」は、廃止措置計画認可申請書に記載した、2016年9月30日時点の保管場所ごとの燃料体数を記載する。
  - (2) 「搬出量（前月末まで）」は、2016年9月30日から前月末までに搬出した燃料体数（累計）を記載する。
- (注5) 2 (5) 放射性固体廃棄物
- (1) 廃止措置計画認可（2017.4.19）以降の1号機における発生量（発電所全体量の内数）を記載する。
  - (2) 「使用済樹脂」は、系統除染で使用した樹脂の量（ $m^3$ ）を記載する。【廃止措置計画における推定発生量は約5.2  $m^3$ 】
  - (3) 使用済樹脂の「発生量」は、使用済樹脂貯蔵タンクに受入れた量（ $m^3$ ）を記載する。
  - (4) 使用済樹脂の「減少量」は、処理を実施した量（ $m^3$ ）を記載する。
  - (5) 「固体廃棄物」は、200ℓドラム缶換算の本数を記載する。【廃止措置計画における推定発生量は約1,800本】
  - (6) 固体廃棄物の「発生量」は、固体廃棄物貯蔵庫に保管した量（本数）を記載する。
  - (7) 固体廃棄物の「減少量」は、施設内で処理または施設外に処分した量（本数）を記載する。
  - (8) 「保管量」は、発生量と減少量の累計の差を記載する。
  - (9) 「雑固体」には、200ℓドラム缶詰めしていないものを含む。
- (注6) 2 (6) 放射線業務従事者の被ばく線量
- (1) 被ばく線量は、警報付ポケット線量計の測定値（単位：mSv、小数点以下3桁目を四捨五入した小数点以下2桁）を集計して記載する。

玄海2号機 廃止措置の実施状況  
(2022年 2月分)

1 第1段階（解体工事準備期間）の進捗状況（注1）

項目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
(1)汚染状況の調査	[Progress bars across years]					
線量当量率測定	[Progress bars across years]					
試料採取	[Progress bars across years]					
輸送・分析・評価	輸送・分析 [Progress bars across years] 評価 [Progress bars across years]					
(2)汚染のない設備の解体撤去	▼着工 (6月29日) タービン建屋内機器保道材 A,B線分分離加熱器 等 薬品ワード 油計量タンク 屋外用空圧圧縮機 塵芥搬送装置 等 復水フィルタ 等 脱気器 等					
(3)使用済燃料搬出	搬出計画検討					
(4)新燃料搬出	輸送容器への収納方法検討・搬出準備 搬出					

2 今月の作業実績（注2）

(1) 汚染状況の調査

工事名	作業期間	工事の概要	作業実績
輸送・分析・評価	2021.7.1～ 2026.3.31（予定）	原子炉格納容器内外の放射化によるコンクリート、金属、及び二次的に汚染した配管、機器及び建屋の放射能濃度を確認するために採取した試料の分析及び評価を行う。	○分析 ・2021.7.1～実施中

## (2) 汚染のない設備の解体撤去

工事名	作業期間	工事の概要	作業実績
2次系設備の解体撤去工事	2020.6.29～ 2026.3.31（予定）	汚染のない管理区域外の2次系設備の解体撤去を実施する。	タービン建屋内機器保温材撤去工事 ・2021.10.25～実施中

## 【解体撤去物の状況】（注3）

（単位：トン）

種類	発生量		処分量		保管量
	今月	累計	今月	累計	
金属類	0	260.1	0	260.1	0
コンクリート類	0	4.4	0	4.4	0
その他	0	12.8	0	12.8	0

## (3) 燃料搬出（注4）

・実績なし

分類	保管場所	項目	燃料体数
玄海2号 使用済燃料	2号機 使用済燃料ピット	貯蔵量（当初）	254
		搬出量（前月末まで）	0
		搬出量（今月分）	0
		貯蔵量（今月末）	254
	4号機 使用済燃料ピット	貯蔵量（当初）	168
		搬出量（前月末まで）	0
		搬出量（今月分）	0
		貯蔵量（今月末）	168
玄海2号 新燃料	2号機 使用済燃料ピット	貯蔵量（当初）	28
		搬出量（前月末まで）	0
		搬出量（今月分）	0
		貯蔵量（今月末）	28
	2号機 新燃料貯蔵庫	貯蔵量（当初）	84
		搬出量（前月末まで）	36
		搬出量（今月分）	0
		貯蔵量（今月末）	48

## (4) 放射性固体廃棄物（注5）

種類	発生量		減少量		保管量
	今月	累計	今月	累計	
使用済樹脂（m <sup>3</sup> ）	0	0	0	0	0
固体廃棄物（本）	15	219	0	0	219
均質固化体	0	9	0	0	9
充填固化体	0	0	0	0	0
雑固体	15	210	0	0	210

## (5) 放射線業務従事者の被ばく線量（注6）

合計 （人・mSv）	今月		累計 （解体工事準備期間中） [2020.4.1～2022.2.28] （人・mSv）
	平均線量 （mSv）	最大線量 （mSv）	
0.22	0.00	0.06	8.48

3 その他  
・なし

記載要領について

(注1) 1 第1段階(解体工事準備期間)の進捗状況

- (1) 使用済燃料搬出の計画については、六ヶ所再処理工場の竣工状況を踏まえた搬出時期の検討を点線で記載する。
- (2) 新燃料搬出の計画については、新燃料を搬出するための輸送容器への収納方法等の技術的検討を点線で記載する。

(注2) 2 今月の作業実績

- (1) 「1 第1段階の進捗状況」に記載している主な工事の実績を記載する。

(注3) 2 (2) 汚染のない設備の解体撤去 【解体撤去物の状況】

- (1) 「発生量」は、設備を解体した際に計量した量(トン数)を記載する。
- (2) 「処分量」は、施設外に産業廃棄物又は有価物として搬出した量を記載する。
- (3) 「保管量」は、発生量と処分量の累計の差を記載する。

(注4) 2 (3) 燃料搬出

- (1) 「貯蔵量(当初)」は、廃止措置計画認可申請書に記載した、2019年3月31日時点の保管場所ごとの燃料体数を記載する。
- (2) 「搬出量(前月末まで)」は、2019年3月31日から前月末までに搬出した燃料体数(累計)を記載する。

(注5) 2 (4) 放射性固体廃棄物

- (1) 廃止措置計画認可(2020.3.18)以降の2号機における発生量(発電所全体量の内数)を記載する。
- (2) 「使用済樹脂」は、除染で使用した樹脂の量(m<sup>3</sup>)を記載する。【廃止措置計画における推定発生量は約1m<sup>3</sup>】
- (3) 使用済樹脂の「発生量」は、使用済樹脂貯蔵タンクに受入れた量(m<sup>3</sup>)を記載する。
- (4) 使用済樹脂の「減少量」は、処理を実施した量(m<sup>3</sup>)を記載する。
- (5) 「固体廃棄物」は、200ℓドラム缶換算の本数を記載する。【廃止措置計画における推定発生量は約1,700本】
- (6) 固体廃棄物の「発生量」は、固体廃棄物貯蔵庫に保管した量(本数)を記載する。
- (7) 固体廃棄物の「減少量」は、施設内で処理または施設外に処分した量(本数)を記載する。
- (8) 「保管量」は、発生量と減少量の累計の差を記載する。
- (9) 「雑固体」には、200ℓドラム缶詰めしていないものを含む。

(注6) 2 (5) 放射線業務従事者の被ばく線量

- (1) 被ばく線量は、警報付ポケット線量計の測定値(単位:mSv、小数点以下3桁目を四捨五入した小数点以下2桁)を集計して記載する。

# 発電所職員等に対する教育訓練の実施計画

(2022年度計画及び2021年度実績)

(1 / 4)

I. 玄海原子力発電所九電社員

区分	場所	項目	内 容	対象者	2021年度実績(人数)	2022年度計画(人数)												計
						1/4			2/4			3/4			4/4			
						4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
職場	原子力発電訓練センター	初期訓練	原子力関係基礎理論教育(講義) 各設備機器の構造機能教育(講義) 運転操作訓練(講義及びシミュレータ訓練)	プラント管理課員・発電第二課員		1				2					2		5	
		一般コース	運転操作訓練 (講義及びシミュレータ訓練)					3			3				3		9	
		再訓練	上級コース		運転操作訓練 (講義及びシミュレータ訓練)							4			4		16	
		監督者コース	監督者の指揮命令、判断能力の訓練 (講義及びシミュレータ訓練)			3		3			6		3		3		3	24
		実技試験コース	運転操作訓練 監督者の指揮命令、判断能力の訓練・試験 (講義及びシミュレータ訓練)												3		3	3
場外	メーカー	必修技能研修	一・二次系、制御、電気設備に関する知識 必修技術の習得	設備管理課員・ 必修第二課員		都 度												11
		品質管理研修	非破壊検査に関する知識・検査技術の習得			都 度												1
	日本原子力研究開発機構	原子力基礎研修	原子炉研修一般課程、基礎課程、放射線防護基礎コース等のコースによる原子力に関する知識・技術の習得	技術系員		都 度												4
教育所	発電所	保安規定教育	原子炉施設保安規定の理解と遵守事項の周知	全所員 (所長は除く)		←—————→												全所員 (所長は除く)
		放射線防護教育	放射線防護に関する知識の習得、遵守事項の周知	放射線業務従事者		←—————→												放射線業務従事者
		防災教育	防災組織等に関する知識の習得、防災意識の高揚	全所員 (所長は除く)		←—————→												全所員 (所長は除く)
		安全協定教育	安全協定の内容に関する周知 社会の動向、安全協定等	全所員		←—————→												全所員
		消防訓練(防火・防災対応)	火災発生時、災害等発生時に自衛消防組織による迅速な消火活動及び避難等が十分機能することの確認	全所員 (当直は除く)		←—————→												全所員 (当直は除く)

区分	場所	項目	内 容	対象者	2021年度実績(人数)	2022年度計画(人数)												計	
						1/4			2/4			3/4			4/4				
						4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
職 場 外 教 育	電 力 所	避難、救助訓練	傷病者発生時の救急活動及び原子力災害時の避難活動が的確かつ迅速に処置できることの確認	全所員(当直は除く)														←————→	全所員(当直は除く)
		原子力防災訓練	非常事態発生時に発電所として対処すべき必要事項の処置並びに防災体制、組織が総合的に機能することの確認	全所員(当直は除く)														←————→	全所員(当直は除く)
		火災防護、内部溢水、火山影響等、その他自然災害対応教育	火災、内部溢水、火山影響等及びその他自然災害(地震、津波及び竜巻等)発生時の措置に関する教育	全所員(所長は除く)														←————→	全所員(所長は除く)
		有毒ガス発生時の対応教育	有毒ガス発生時の措置に関する教育	全所員(所長は除く)														←————→	全所員(所長は除く)
		通報連絡訓練	異常発生時等に社内外の関係先への確かつ迅速に通報連絡できることの確認	関係者							15	15						↔ ↔	30
		危険物保安教育	危険物の取扱い及び防火管理に関する意識の高揚	関係者														←————→	200
		アクセシビリティマネジメント教育	重大事故等及び大規模損壊発生時における原子炉施設の保全のための活動に関する教育	全所員(所長は除く)														←————→	全所員(所長は除く)
		要員養成教育	原子力訓練センターにおける訓練	設備管理課員・保修第二課員 プラント管理課員・発電第二課員														←————→	340
		要員養成教育	安全作業及び品質管理教育	関係者														←————→	402
		職 場 内 教 育	電 力 所	新入社員教育 〔発電所の概要及び従事者として必要な安全協定等の机上教育並びに実務教育〕	新入社員全														←————→
転入社員教育 〔発電所の従事者として必要な保安規定、安全協定並びに品質保証等の机上教育〕	転入社員全																←————→	転入社員全員	—
放射線業務従事者指定時等の放射線管理教育	放射線業務従事者に指定する者																↔ ↔ ↔	放射線業務従事者に指定する者	—
要員養成教育	技術系各課の業務遂行に必要な実務教育			技術系各課配属者													←————→	技術系各課配属者全員	—
要員養成教育	緊急処置訓練 (模擬操作訓練及び処置の検討)	プラント管理課・発電第二課当直員全													←————→	発電第二課 当直員全員 1回/月 プラント管理課 当直員全員 1回/2ヵ月	プラント管理課・発電第二課当直員全		



区分	場所	項目	内 容	対象者	2021年度実績(人数)	2022年度計画(人数)													
						1/4			2/4			3/4			4/4			計	
						4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
職場外教育	発電所	成立性確認訓練	重大事故等対応に係る成立性を確認するための訓練	運転員、運転対応要員、保修対応要員、緊急時対策本部要員(指揮者等)、特重施設要員															
		重大事故等発生時の対応に係る総合的な訓練	重大事故等発生時のプラント状況の把握、的確な対応操作等の総合的な訓練	運転員、重大事故等対策要員、緊急時対策本部要員、特重施設要員															
		大規模損壊発生時の対応に係る総合的な訓練	大規模損壊発生時のプラント状況の把握、情報収集、的確な対応操作の選択及び緊急時対策本部要員指揮者等、特重施設要員及び専属自衛消防隊との連携を含めた総合的な訓練	任意の緊急時対策本部要員(指揮者等)、特重施設要員、専属自衛消防隊															
		アクシデントマネジメント訓練	大規模損壊発生時に通常の指揮命令系統が機能しない場合等の事態を想定した教育訓練	所長、原子炉主任技術者、緊急時対策本部要員(指揮者等)、発電第二課長、保修第二課長 他															
		力量維持訓練	重大事故等及び大規模損壊発生時に、適切に対応できるように力量を維持するための訓練	保修対応要員、緊急時対策本部要員(指揮者等を除く)															
		緊急処置訓練(特重施設)	原子炉格納施設等への故意による大型航空機の衝突等による大規模損壊発生時における各種緊急事象の発生に対する模擬操作訓練及び処置の検討	特重施設要員															
		特重施設の操作に係る成立性確認訓練	原子炉格納施設等への故意による大型航空機の衝突等による大規模損壊発生時における特重施設による対応操作を確認する訓練	特重施設要員															
		特定核燃料物質防護対策教育	核物質防護設備の運用及び異常時の措置に関する知識の習得、核物質防護に対する意識の高揚	全所員															
職場内教育		特定核燃料物質防護対策訓練	発電所防護上の緊急時に社内外への迅速な通報連絡及び対応等の所要の措置を講ずることができることの確認	関係者															

Ⅱ. 協力的会社玄海事業所従業員

(4/4)

区分	場所	項目	内容	対象者	2021年度実績(人数)	2022年度計画(人数)												計				
						1/4			2/4			3/4			4/4							
						4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3					
協力的会社への教育	発電所	安全衛生協議会	安全衛生管理の推進を図るため、災害防止等の安全確保意識の啓蒙と相互間の連絡、調整	〔玄海原子力発電所〕の管理職 安全衛生協議会加盟会社の責任者	/															← 毎月 1回 →	毎回 50	
		避難・救助訓練	緊急処置の訓練を九電の訓練に併せて実施	協力的会社玄海事業所の放射線管理責任者及び作業責任者																	← →	-
		消防訓練(防火・防災対応)	消火活動、防災活動の訓練を九電の訓練に併せて実施	協力的会社玄海事業所の従業員																		↔ ↔

別 添 2

立コミ本第492号  
2022年4月1日

佐 賀 県 知 事  
山 口 祥 義 様

九州電力株式会社  
代表取締役 池 辺 和 弘  
社長執行役員

玄海原子力発電所原子炉施設保安規定の変更について

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

かねてから当社事業につきましては格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、玄海原子力発電所原子炉施設保安規定につきましては、2022年3月24日付けで原子力規制委員会から変更の認可を受け、2022年4月1日付けで施行しましたので、「原子力発電所の安全確保に関する協定書」第5条第5号に基づき、別添のとおりご連絡申し上げます。

今後とも、一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

別 添 3

立コミ本第497号

2022年4月1日

佐 賀 県 知 事

山 口 祥 義 様

九州電力株式会社

代表取締役

社長執行役員

池 辺 和 彦

国際原子力機関による玄海原子力発電所3号機の査察に伴う

フォーク型検出器の輸送について（搬入）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

かねてから当社事業につきましては、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社は、国際原子力機関が玄海原子力発電所3号機の査察で使用するフォーク型検出器の輸送について、別紙のとおり調整しておりますので、「原子力発電所の安全確保に関する協定書」第5条第5号に基づき、ご連絡申し上げます。

今後とも、一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

(別紙)

## 「フォーク型検出器」の輸送について

国際原子力機関が玄海原子力発電所3号機の査察時に使用する「フォーク型検出器」の輸送を以下のとおり調整しております。

### 1. 荷送人、荷受人

荷送人：国際原子力機関 東京地域事務所

(東京都千代田区飯田橋1-5-9 精文館ビル9階)

荷受人：九州電力株式会社 玄海原子力発電所

(佐賀県東松浦郡玄海町大字今村字浅湖4112番地1)

### 2. 輸送区間

輸送元：成田国際空港

(千葉県成田市駒井野字天並野2162)

輸送先：九州電力株式会社 玄海原子力発電所

(佐賀県東松浦郡玄海町大字今村字浅湖4112番地1)

### 3. 輸送期間 (予定)

発送年月日：2022年4月4日 (月)

到着年月日：2022年4月5日 (火)

### 4. 輸送物等

#### (1) 輸送品

フォーク型検出器

#### (2) 輸送方法

陸上輸送 (3tトラック：1台)

輸送業者

・管理者：株式会社日立物流バンテックフォワーディング

・運搬人：株式会社日立物流

#### (3) 輸送容器

a. L型輸送容器 1個

b. 寸法、重量 (収納品含む) 及び放射能量

容器寸法 (L×W×H)	重量 (収納品含む)	放射能量 (換算量)	線量当量率 (容器表面)
78cm×58cm×60cm	103.5kg	1.894×10 <sup>6</sup> Bq	<0.5 μSv/h

以上